

総合文化研究所主催講演会 「La coscienza dello zen: Italo Svevo e l'arte di smettere di fumare (ゼンの意識: イタロ・スヴェーヴォと禁煙の嗜み)」 2014年4月22日 リッカルド・チェバック (ズヴェーヴォ博物館館長)	「旧ユーゴ映画の現在」 2014年5月29日 平野共余子 (映画史研究者)	エリック・ナイマン (カリフォルニア大学バークレー校教授)
「ドイツ民主共和国と統一 25年後の東ドイツ地域」 2014年6月23日 フランク・リースナー (千葉大学講師)	「Matthew Carl Strecher 氏講演会」 2014年6月6日 マシュー・カール・ストレッカー (Winona State University Global Studies and World Languages Program)	総合文化研究所共催研究会 「映画からみるエジプト—喜劇王アデル・イマームとともに」 2014年12月11日 勝畑冬夫 (本学非常勤講師)
「面白い日本の私」 2014年7月7日 ロジャー・バルバース (元東京工業大学教授・世界文明センター長)	「シリーズ多文化社会で働くということ① 難民支援最前線—日本の場合」 2014年7月25日 石川美絵子 (ISSJ 難民担当ワーカー / 特定非営利活動法人なんみんフォーラム事務局)	「世界文学・語学・翻訳ネットワーク 第2回研究集会」シンポジウム「世界文学と(としての)日本文学」 2015年3月19日-20日 池澤夏樹・西成彦・中川威夫・佐藤泉・沼野充義・和田忠彦・山口裕之・早川敏子・鴻巣友季子
「ロシア文学を世界に普及させる者としての21世紀の文芸エージェント。ただし〈ロシア世界〉を世界に普及させる者としてではなく」 2014年11月11日 エレナ・コスチューコヴィチ (作家・翻訳家)	「東南アジア文学の今《インドネシアのメガ・ヒット小説》—アントレ・ヒラタが語る『虹の少年たち』の世界—」 2014年11月10日 アントレ・ヒラタ (作家)	総合文化研究所公開研究会 ICS Workshop Series 「永井荷風『支那人』(『仮面』)論」 2015年1月14日 竹森航理
「語る言葉とうたう言葉—戯曲翻訳と訳詞について—」 2014年11月17日 高橋知伽江 (劇作家・翻訳家)	「エコール・ド・パリのウクライナ人芸術家たち」 2014年11月28日 ヴィタ・スサク (ウクライナ国立グリュウ美術館学芸員)	「ろう文化における deafness 概念」 2015年1月28日 山下惠理
総合文化研究所共催講演会 「祖国の中の異界 日本近代文学 (子規・鷗外・漱石) における空間的指標の喪失」 2014年4月21日 エマニュエル・ロズラン (フランス国立東洋言語大学)	「日本文学が私に教えてくれたもの」 2015年1月29日 スティーブン・ドッド (ロンドン大学)	総合文化研究所共催ワークショップ 「アヴァンギャルドの諸相 01」 2014年9月29日 前田和泉・西岡あかね
	総合文化研究所共催国際シンポジウム 「ナポコフとロシア文学」 2014年4月26日	「アヴァンギャルドの諸相 02」 2015年3月2日 松浦寿夫・横田さやか

編集後記

「文化」受難の時代である。短期的な目に見える損益という尺度で計られると、いかんせん文化や芸術は分が悪い。ましてや「文化研究」となる、いったいなぜそんなもののために貴重な税金や知的労力を費やすのかという風当たりが、四方八方から(時には身内からも)吹きつけてくる。

この逆風にあらがうべく、今年度の本研究所は山口裕之所長のもと、多種多様にして多彩な講演会・シンポジウムを催し、また、大学院博士後期課程在籍中の若手研究者による公開研究会 ICS Workshop Series を立ち上げるなど、専門地域や分野を横断する活動に力を入れ、一定の手ごたえを得た。さらに、山口先生を代表者とする科学研究費・基盤研究(B)「西欧アヴァンギャルド芸術における知覚のパラダイムと表象システムに関する総合的研究」がスタートし、本研究所の活動への寄与が期待される。

この研究プロジェクト参加者から、本号の特集には二本の論文が寄せられた。技術による知覚システムの変化とアヴァンギャルド芸術における身体像の関係を論じた山口先生の論文と、二十世紀初頭の女性の身体像のあり方を服飾史の視点から論じた沼野恭子先生の論文だ。その他、日本語へと「帰った」作家リー・ヒ英雄と「九・一一」の関係を論じた柴田勝二先生、キューバの作家デスノエスの作品を例に植民地知識人の文学的戦略を探った久野量一先生、「狂人」の形象に着目してペルシア神秘主義詩人アッタールを考察した佐々木あや乃先生の三論文が寄稿され、多彩な分野にわたる文化研究のいわば出会いの場となる「総合文化研究」の面目躍如たるラインナップになったのではないかと感じている。いずれ劣らぬ力作をお寄せ下さった皆様に感謝したい。

二〇一五年四月からは、和田忠彦先生を新たに所長にお迎えする。嵐も波もしなやかにしたたかに受け止めて、本研究所の航海は続く。

(前田和泉・西岡あかね)

投稿規定

1. 『総合文化研究』は東京外国語大学総合文化研究所の研究活動の成果ならびに所員の研究成果の発表のために、同研究所の責任において編集・発行される。なお本誌掲載の論文等に関しては、著者が著作権を有するが、著作権法で規定する複製権及び公衆送信権については、著者は国立大学法人東京外国語大学にその使用を許諾するものとし、本誌掲載論文等は同大学によって電子化・公開される。
2. 『総合文化研究』は原則として各年度ごとに1号を発行する。同研究所は同誌発行のために編集委員会を置く。
3. 投稿は、同研究所の所員ならびに同研究所の研究活動に寄与した者が執筆した未発表の論稿に限る。
4. 編集委員会は必要に応じて外部の者に寄稿を求めることができる。
5. 内容区分は「特集論文」「自由論文」「報告」「書評」とする。
「特集論文」：特集テーマに沿った、執筆者自身による未発表の研究論文。
「自由論文」：執筆者自身による未発表の研究論文。
「報告」：同研究所で開催した講演会・シンポジウムの内容についての報告。
「書評」：書評・新刊紹介等。
6. 使用言語は特に制限しない。ただし、印刷の都合上、言語によっては、写真製版用完全原稿を要求することがある。
7. 写真・図表等は完全原稿とし、希望の大きさと挿入箇所を指定すること。
8. 注は、後注とすること。

Trans-Cultural Studies No.18
総合文化研究 第18号

2015年3月18日発行

責任編集 前田和泉 西岡あかね

編集スタッフ 石井沙和 竹森帆理
粒良麻央 山下恵理

発行 東京外国語大学 総合文化研究所
〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1
電話 042-330-5409
Fax 042-330-5410
Web <http://www.tufs.ac.jp/common/fs/ics/>
e-mail tufs422ics@tufs.ac.jp

印刷 三鈴印刷株式会社
東京都千代田区神田神保町二丁目32番地1